

令和 6 年度青少年の健全育成に関する意識調査結果について

1 調査の概要

(1) 名称

青少年の健全育成に関する意識調査

(2) 目的

青少年の健全育成に関する県民意識や行政に対するニーズを把握し、今後の青少年の健全育成の基礎資料とする。

(3) 調査対象

- ア 少年（男女） 500 人 （岩手県内に居住する中学生・義務教育学校後期課程（小中一貫校の 7～9 年生）の生徒・高校生）
- イ 上記少年の保護者 500 人
- ウ 青年（男女） 1,500 人 （満 20 歳から 39 歳まで）

(4) 調査時期

令和 6 年 9 月 27 日から令和 6 年 10 月 15 日まで
（平成 15 年度から 3 年に一度実施、前回：令和 3 年 10 月～12 月）

(5) 回収状況

少年 480 人（回収率 96.0%）、保護者 483 人（96.6%）、青年 339 人（22.6%）

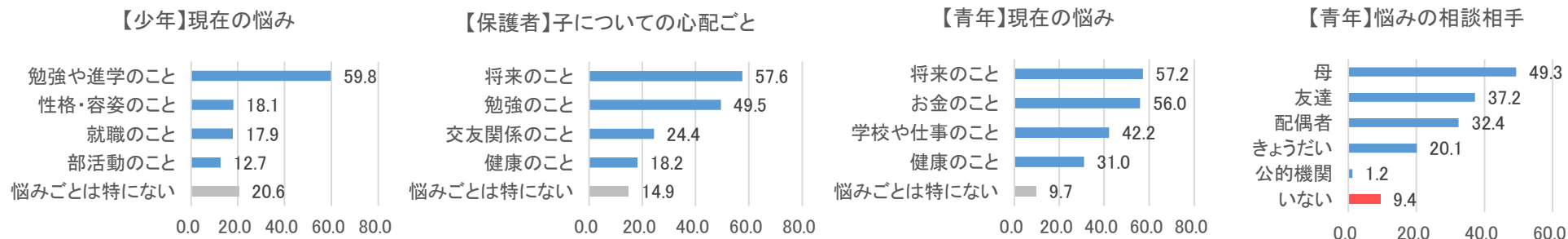
2 主な調査結果の概要

(1) 悩みごと

少年・保護者ともに、勉強や進学に関する悩みが多くなっている。

悩みがある青年が多く、特に、将来やお金、学校や仕事に関するものが多くなっている。

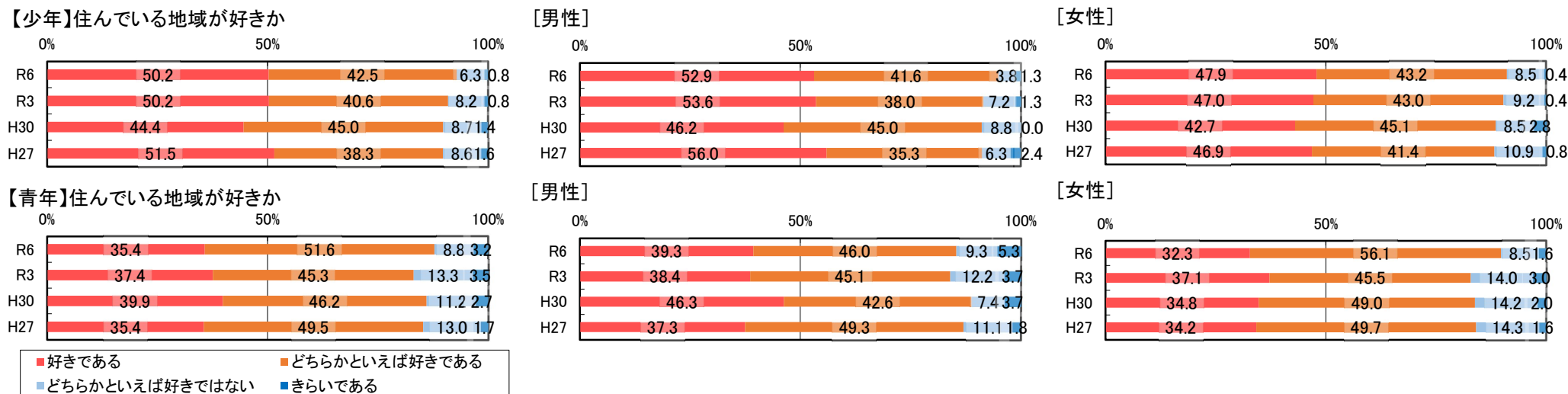
悩みの相談先としては、家族や友達が多い一方、約1割の青年が悩みの相談相手がいないと回答している。



(2) 地域への愛着

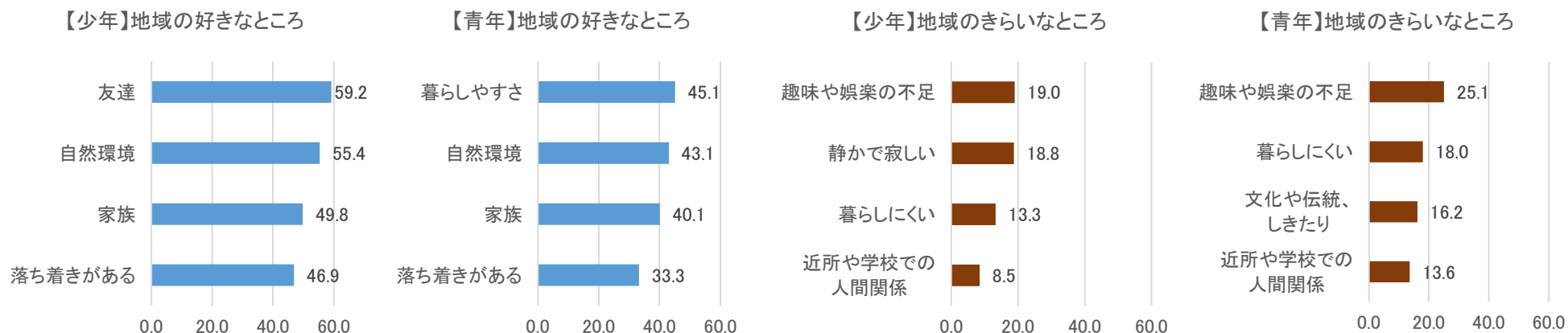
住んでいる地域が「好きである」又は「どちらかといえば好きである」と回答した割合が全体の8割以上となっている。

少年について、男性より女性の方が、住んでいる地域への愛着がやや低い傾向がみられる。

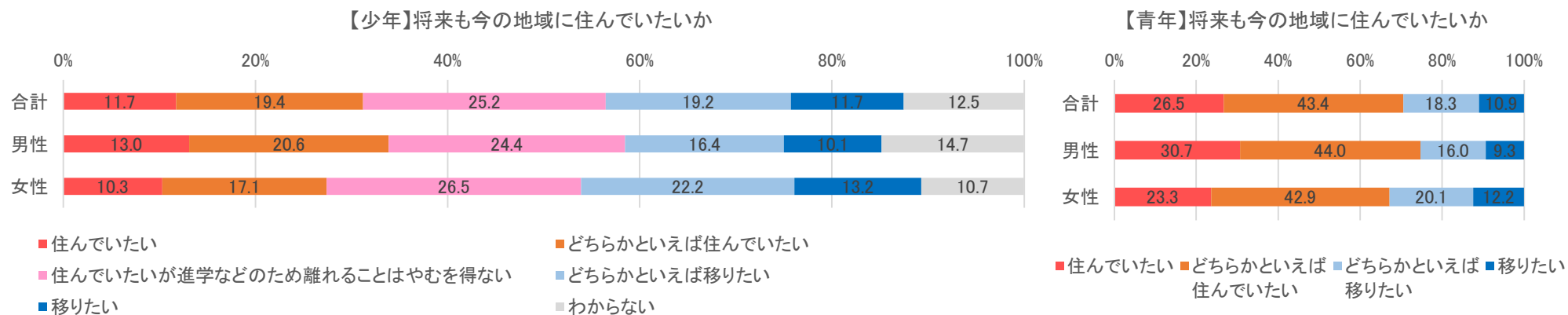


(2) 地域への愛着（続き）

住んでいる地域の好きなところとして、家族や友達など人間関係のほか、自然環境や風景、景観など岩手らしさを象徴する項目が多く挙がっている。一方、きれいなところとして、趣味や娯楽の不足、静かで寂しいといった、楽しさや賑わいに関する項目が挙がっている。



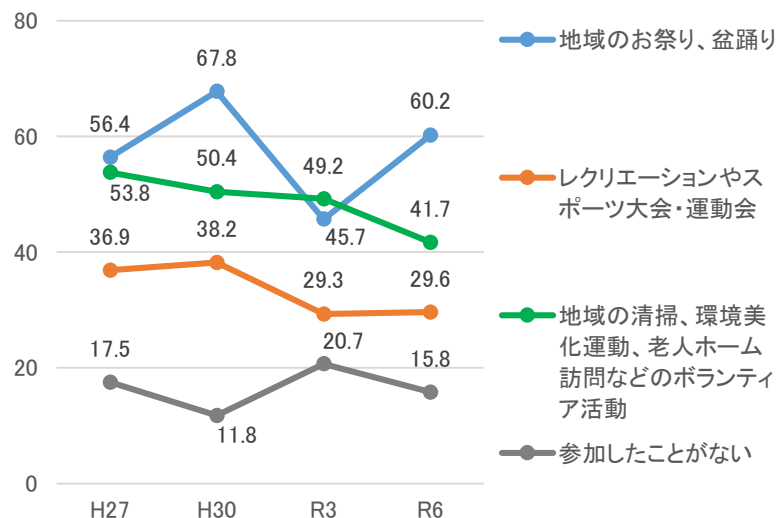
将来も今住んでいる地域に住んでいたいと考える少年は半数を超えているが、進学などのため離れることはやむを得ないと考える割合も少なくない。男性より女性の方が、地域に住み続けたい意識がやや低い傾向がみられる。



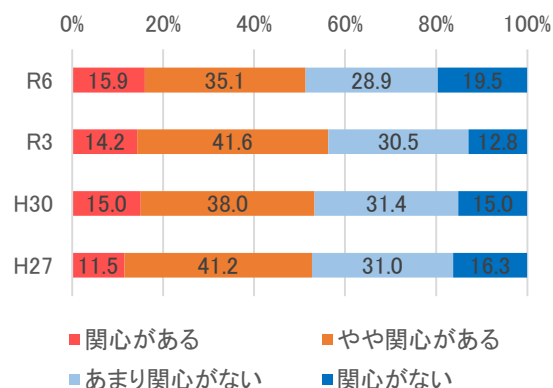
(3) 社会活動への参加

地域の社会活動への参加状況は、コロナ禍にあった前回調査(R3)から増加したものもありましたが、コロナ禍前の前々回調査(H30)より少ない状況。約5割の青年が、若者自身が企画し実施するプロジェクトへの参加に関心を持っている一方、忙しさなどを理由に、社会活動に参加したことのない青年の割合が増加している。

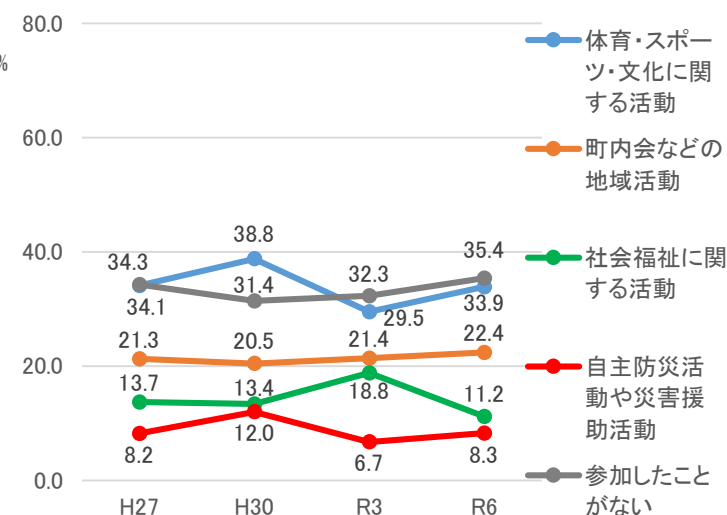
【少年】参加したことがある活動



【青年】若者によるプロジェクトへの関心



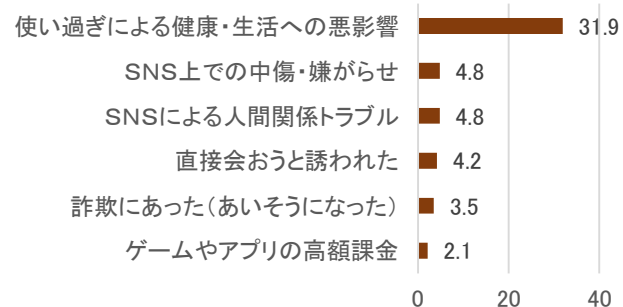
【青年】参加したことがある活動



(4) インターネット利用

少年の3割程度が使い過ぎにより健康や生活に悪影響が出たという認識を持っており、保護者の多くが、健康や生活への悪影響のほか犯罪被害やトラブルに不安を抱いている。

【少年】インターネット利用時の経験



【保護者】子のインターネット利用に関する不安

